

法解釈入門

山下純司 = 島田聡一郎 = 穴戸常寿

2013 年 12 月刊 / 242 頁 / 1995 円 (税込)

A5 判 / 並製



編集 担当者 から

法学部の学習では、多くの場合、実定法の解釈を中心とした講義を聞くことになります。しかし、法制度の解説や学説の分岐、判例の分析や位置づけを聞くことはあっても、法を解釈するということはということなのか、どのような考慮要素があり、それらをどのような関係で考えればよいのかといった話が、明示的に語られることは少ないようです。法学部の学生は、分野は異なっても、4 年間にいくつもの法律の講義を聞くうちに、何となく理解して（慣れて）、法解釈ができるようになっていくという面がありました。本書は、法の解釈作業の思考過程などでもできるだけ具体的に文章化して、法律分野ごとの考え方の特徴なども語ることで、体感する≡慣れる前に習ってもらおうという意図を持った、これまでとは異なる法律学の入門書です。初学者のみならず、法律の考え方の核のところがどうも分からないといった「もやもや」を抱えている方々にも是非おすすめしたい一冊です。(D)

Index

I

第 1 部、第 2 部は一気に、第 3 部は判例も一緒にじっくり読んでみて下さい。

Introduction

第 1 部 法解釈を始めよう

第 1 章 まずは条文を眺めてみよう

第 2 章 条文を解釈しよう

第 3 章 各法分野における 法解釈の特徴

第 1 節 民法

第 2 節 刑法

第 3 節 憲法

第 4 章 法解釈と利益衡量論

第 1 節 紛争解決手段としての法解釈

第 2 節 利益衡量による法解釈

第 3 節 事案に即した利益衡量

第 5 章 解釈の対象となる法

第 6 章 判例・学説の関係

第 2 部 各法分野における 法解釈の例

第 7 章 民法

第 1 節 体系からルールを導く ——物権的請求権

第 2 節 94 条 2 項の類推適用 ——権利外観法理をめぐる議論

第 3 節 瑕疵担保責任 ——学説の論争と判例に どう向き合うか

第 8 章 刑法

第 1 節 財産犯と民事法

第 2 節 過剰防衛 ——判例の読み方

第 3 節 不真正不作为犯と刑法の解釈

第 9 章 憲法

第 1 節 衆議院の解散

第 2 節 人権の限界に関する 解釈論の「型」

第 3 部 2 つの視点から考える 法解釈

第 10 章 広島市暴走族追放条例事件 ——憲法と刑法の視点から

第 11 章 立川テント村事件 ——刑法と憲法の視点から

第 12 章 利息制限法と司法 ——民法と憲法の視点から